

平成29年度 次期学習指導要領対応授業力向上研修
授業実践後サポート研修③

資質・能力の育成につなげる カリキュラム・マネジメント

平成29年12月8日
総合教育センター
高等学校支援課



Key word

つながる

見える

教科ごとのスイッチ = 「見方・考え方」

国語

地公

数学

理科

外国
語

情報

保体

芸術

家庭

専門
教科

総合
学習

特別
活動

各教科等をつなぐ教育課程の編成と実施



教科を何で横断させるのか？

資質・能力

教科内容

学び方

外部人材

先生方への「問い」

★※◇さんが「〇〇高校の生徒に育成したい資質・能力」を育成または発揮するために、担当教科ではどのようなアプローチができるでしょうか？



Menu

ア

説明

**カリマネの
理念を共有**

イ

導入

**演習の流れ
を確認**

ウ

演習

協議



ポスターツアー

E ジャーナルしずおか 189号 (7月5日発行) 190号 (8月7日発行) あすなるアングル

Eジャーナルしずおか 平成29年(2017年)7月5日(水曜日) 第189号 (4)

Eジャーナルしずおか 平成29年(2017年)8月7日(月曜日) 第190号 (4)

「次期学習指導要領対応授業力向上研修」の取り組みを紹介します。

(主体的・対話的で深い学びの実現に向けて)

資質能力の育成

この研修は「主体的・対話的で深い学び」の実現を目標に、平成28年度から全校種において実施しており、センター研修と校内OJTを往還する継続的な仕立てとなっています。3年間の実施を予定しており、本研修への参加者が各学校内に増えていくことで「主体的・対話的で深い学び」の理解が全ての教員へと広がり、児童生徒の資質・能力の確実な養成につながっていきます。

※総合教育センターホームページ「アクティブラーニングとカリキュラムマネジメント」に掲載のページが対象です。ぜひご覧ください。
http://www.center.shizuoka.ac.jp/index.php?page_id=226
※カリキュラムマネジメントに関しては次年度研修予定です。

【アクティブラーニング プロジェクトチーム】

「次期学習指導要領対応授業力向上研修」の取り組みを紹介します。

(カリキュラム・マネジメントの実現に向けて)

左の図は、カリキュラム・マネジメントの考え方に加え、センターにおける研修と学校における実践との往還をイメージ化したものです。研修では、これからの社会に必要な資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの必要性を理解し、手法を得るための研修メニューを提案・実施します(高・特)。校内における授業改善が、組織的な取り組みとなって普及することで、児童生徒の資質・能力の確実な養成につながっていくことを目指しています。

※総合教育センターホームページ「アクティブラーニングとカリキュラムマネジメント」に掲載のページが対象です。ぜひご覧ください。
http://www.center.shizuoka.ac.jp/index.php?page_id=226
【アクティブラーニング プロジェクトチーム】

夏休みは富士山麓で思い出づくり!!

～山の村宿泊体験 参加者募集～

お子さんの夏休み、予定はお済みですか?
富士山麓の村では、県民の日協賛事業「夏の宿泊体験」を開催します。富士山麓の大自然の中で親の絆を深めよう!!

○日 時 平成29年8月21日(月)～22日(火) (1泊2日)

○対 象 家族単位
○定 員 12家族(先着)
○費 用 1,800円/人
○申込方法 お電話でお申し込みください
○申込期間 平成29年7月31日(月)～8月4日(金)

<スケジュール>

1日目	14:30 創作活動 17:00 夕食 18:00 軽スポーツ 20:00 入浴・就寝
2日目	7:00 朝食 9:00 山麓ワーク

<昨年度の参加者の声>
テレビでもスマホでも見えない状況でしたが、親子でのんびり過ごすことができました。

申 問 富士山麓山の村 0545(36)2236

三ヶ日青年の家へ出掛けよう!

「夢を宇宙へinハマナコ」
宇宙について学び、水ロケットを作って、浜名湖に向かって打ち上げる体験を行います。また、湖畔の生物観察を通して浜名湖について学習します。

○日 時 平成29年9月30日(土)～10月1日(日) (1泊2日)
○対 象 小学4～5・6年
○定 員 60人(申込多数の場合は抽選)
○活 動 水ロケット作り、水ロケット打ち上げ、浜名湖学習、湖畔の生物観察

○申込期間 平成29年7月18日(火)～8月31日(木)

【家族deフィッシング】
家族と一緒に釣りを楽しみながら、浜名湖の生き物について学ぶことができます。

○日 時 平成29年10月14日(土) 日帰り
○対 象 家族(小学生以上)
○定 員 30家族(申込多数の場合は抽選)
○活 動 魚釣り、魚調理体験、かじり釣り体験

○申込期間 平成29年7月20日(火)～8月31日(木)

○申込方法 (上記イベント共通)
①①～①を記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。
①イベント名 ②参加者氏名・性別 ③生年月日・年齢 ④保護者氏名
⑤郵便番号・住所 ⑥電話番号 ⑦小学校名・学年

問 三ヶ日青年の家 053(526)7156 053(526)0665
〒431-1402 浜松市北区三ヶ日町都敷523-1

観音山少年自然の家へ出掛けよう!

第2回観音山オープンデー
事前の申し込みなしで気軽に参加できる無料イベントです。第2回は、はろく沢の活動エリアで自然を満喫していただきます。幼児から大人の方まで、どなたでも沢遊びや沢遊びを楽しむことができます。また、沢の要所には所員が立ち、沢の案内をしますので安心して遊ぶことができます。

○日 時 平成29年9月22日(土) 受付9時～11時
○対 象 家族・友達
○参 加 費 無料(昼食は各自持参)

第2回観音山わくわくホリデー
日帰り家族や仲間と初秋の観音山を楽しんでみませんか?
午前中は、水鉄砲や竹細工など、手作りの遊び道具を作ります。午後は観音山の自然を満喫できる活動を選択して行います。作った遊び道具を持って沢で遊ぶこともできます。活動後は、お風呂を用意しますので、ゆっ～と汗を流してください。

○日 時 平成29年9月17日(日)
○対 象 家族・友達
○定 員 50人程度(先着)
小学生以上1,000円程度
幼児以下900円程度
※どちらも昼食付

○申込方法 平成29年8月16日(木)午前9時から電話でお申し込み
申 問 観音山少年自然の家 053(545)0111
〒431-2201 浜松市北区引佐町東久留女木字観音山

～見上げてみよう 今夜の月を～

プラネタリウム一般開放

十五夜が迫る今回のテーマは月です。毎日見る月は少しずつ形や大きさ、夜になって見える場所も変わっていきます。秋の夜長を鳴き止んだ虫たちの声を聞きながら家族で星空を眺めてみませんか?

○テ マ 見上げてみよう今夜の月を
○内 容 十五夜について さりげない座の見つけ方 産生星座おとめ座
○日 時 平成29年9月18日(月祝) 1部 受付13:15 上映13:30～14:30
2部 受付15:00 上映15:15～16:15
○場 所 静岡県立朝霧野外活動センター プラネタリウム室
○対 象 家族・小グループ
途中退場可能です。小さいお子様でも安心してご覧いただけます。お一人様での鑑賞も歓迎いたします。
○定 員 各90人(要予約、先着)
○参 加 費 1家族・1グループ 500円
○申込方法 下記1～5についてお電話またはメールにてお知らせください
1タイトル プラネタリウム一般開放
2鑑賞希望日時 ①9月18日 ②1部or2部
3代表者氏名、4電話番号、5鑑賞人数(①大人、②子ども)
※3人の場合、受付完了メールを必ずお申し込みください。お申し込みがキャンセルの場合はお電話ください。

申 問 朝霧野外活動センター 05044(52)0321
Eメール planet-asagiri@camping.or.jp

皆さんの気付き、疑問を統計グラフに!

第66回静岡県統計グラフコンクール

小中学校の次期学習指導要領では、データを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決するための統計教育の充実が掲げられ、注目されています。また、高校・大学においても、統計教育が拡充され、各教育年代を通じて、統計的なスキルを習得することの重要性が高まっています。統計グラフコンクールへの参加は、統計学習の第一歩として非常に役立ちます。児童生徒は、統計グラフの作成を通して、客観的な事実に基づく判断力、自分の考えを他者に伝えるための表現力、根拠に基づいて説得力のある提案方法などの統計的思考力を身に付けることができます。

作品は9月4日(月)まで募集しております。詳しくは、各学校にお送りしている募集要領または県統計サービス「グラフ博士のうけい」(http://toukei.pref.shizuoka.jp/kids/)をご覧ください。また、統計利用課では直接学校へ赴き、データの収集方法等についての講座を実施しています。現在実施校を募集しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

平成28年度静岡県教育実践(小学校1～2年生の部) 朝霧市立千原丘小学校1年 加藤 蒼太さん

問 県統計利用課 054(221)2298
mailto:toukeiryu@pref.shizuoka.jp

静岡県立総合教育センター発のスマートフォンアプリ

ふいっくさんこそぞだメール

子育てQ&A、お役立ちリンク、お知らせなどがご利用いただけます。【無料ダウンロードはこちら】

問 幼児教育センター 0504(221)3287

静岡県立総合教育センター発のスマートフォンアプリ

ふいっくさんこそぞだメール

子育てQ&A、お役立ちリンク、お知らせなどがご利用いただけます。【無料ダウンロードはこちら】

問 幼児教育センター 0504(221)3287

アクティブ・ラーニングで学ぶ授業で使えるエネルギー教育

2017年8月2日(水) 13:00～16:45
13:00～15:00 県立総合教育センター 研修室(1階)にて開催
① 静岡県下の小・中・高・高等学校教諭ほか
② 清水エールエネジー(株) 補給基地

【エネルギー教育の基礎講座】～ガスを知り、ガスを学ぶ～
エネルギーを身近に感じ、活用しているガスが提供する事業の役割や活用について、日本ガスの担当者が最新の視点から説明いたします。

11月11日 県内5会場同時開催 地域予選大会

静岡県内の参加親子大募集!

炎の調理で五感を研ぎ澄ます

10/11(日) 県内5会場同時開催 地域予選大会
静岡県内の参加親子大募集!

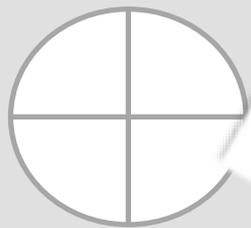
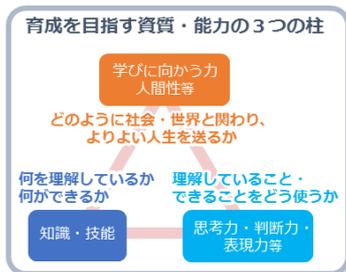
ご応募多数の学校には 応募受付期間 はこちらより

新聞の教育教材定価のご案内

静岡新聞社は、小学校、中学校、高校、大学などの授業で新聞を教材として使用する際に、教育教材定価を提供しています。申し込み条件や定価については、静岡新聞社読者部までお問い合わせください。

問 054(285)9532 054(285)9614 専用HP

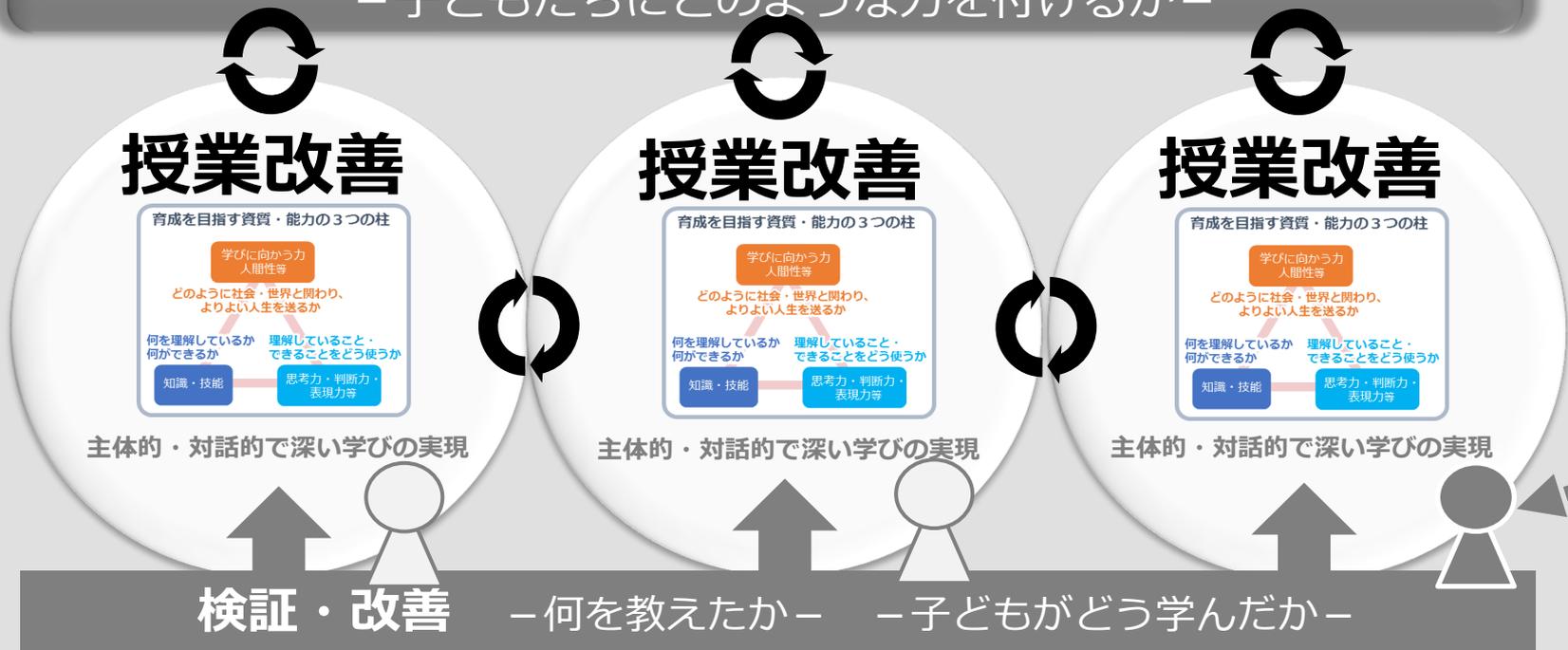
Eジャーナルしずおか190号（8月7日発行）あすなるアングル —カリキュラム・マネジメントの実現に向けて—



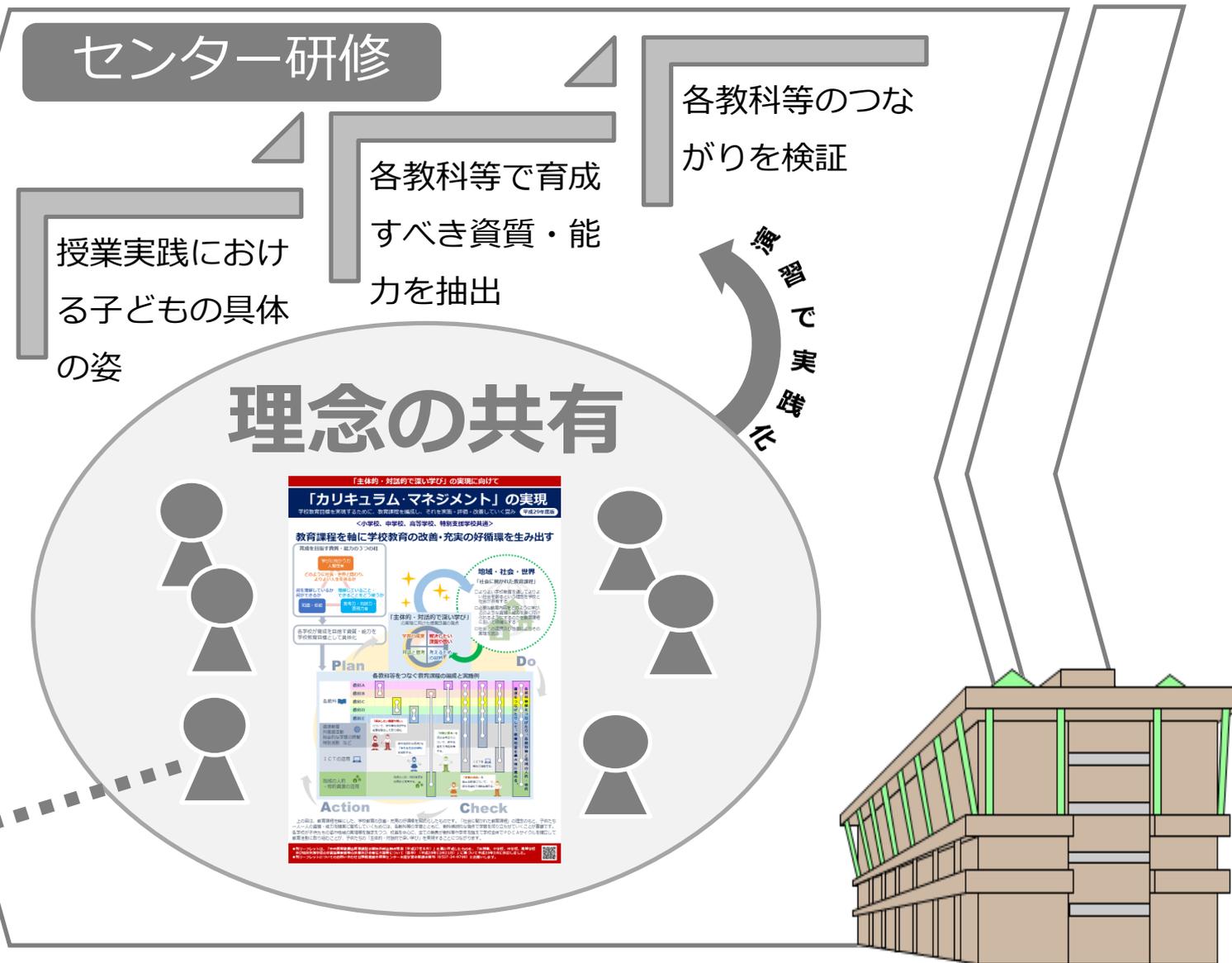
教科横断的な視点
PDCAサイクル
地域資源の活用

組織運営の改善

目指す学校像（育成を目指す生徒の姿） —子どもたちにどのような力を付けるか—



Eジャーナルしずおか190号（8月7日発行）あすなろアングル —カリキュラム・マネジメントの実現に向けて—



カリキュラム・マネジメントとは

■ 3つの側面

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた**教科等横断的な視点**で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の**P D C Aサイクル**を確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源等**を、地域等の外部の資源も含めて**活用**しながら効果的に組み合わせること。

カリキュラム・マネジメントとは

子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくこと。

カリキュラム・マネジメントとは

学習指導要領

目指す学校像 (育成を目指す生徒の姿)

教育課程

年間指導計画

単元計画

1 単元時間の
授業

カリキュラム・マネジメントとは

学習指導要領

目指す学校像 (育成を目指す生徒の姿)

教育課程

年間指導計画

単元計画

1 単元時間の
授業

カリキュラム・マネジメントとは

学習指導要領

目指す学校像 (育成を目指す生徒の姿)

教育課程

年間指導計画

単元計画

1 単位時間
の授業

カリキュラム・マネジメントとは

学習指導要領

目指す学校像 (育成を目指す生徒の姿)

つながる

教育課程

年間指導計画

各教科、教科と学年、各学年、学校内外、など
俯瞰的な視点をもってつながりながら、
すべての先生方によって、教育活動をより良い
ものにしていくサイクルをまわす

単位時間
の授業

カリキュラム・マネジメントの充実 によって期待できる成果



【生徒】
学びの深まり

見える

【教師】
見通しと展望

平成28年度次期学習指導要領対応指導力向上研修（290201）

演習「資質・能力の育成につなげるカリキュラム・マネジメント」ワークシート

目指す学校像 (学校教育目標)	
--------------------	--



学校で育成すべき 資質・能力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・学びに向かう力 協働性・人間性など
実践した学びのデザインシートの単元をつなげる			
学びのデザインシート「学習の成果」を基にした、資質・能力の改善案			
担当教科で育成すべき資質・能力を抽出			
他教科			
総合的な学習の時間 特別活動			
I C T活用			
地域の人的・物的資源の活用			

【問い】所属校における各教科等の学びや様々な教育活動がつながり、それが見えるようになるために、あなたはこの演習をどのように生かしますか？

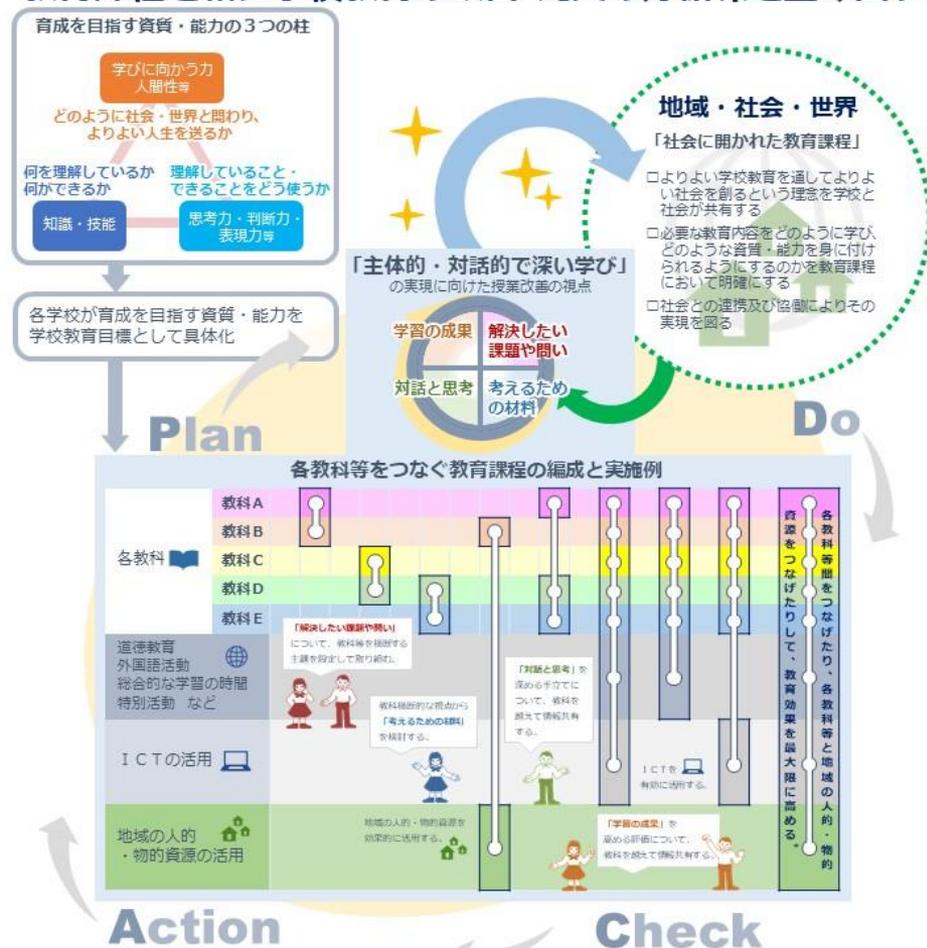
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

「カリキュラム・マネジメント」の実現

学校教育目標を実現するために、教育課程を編成し、それを実施・評価・改善していく営み 平成29年度版

＜小学校、中学校、高等学校、特別支援学校共通＞

教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す

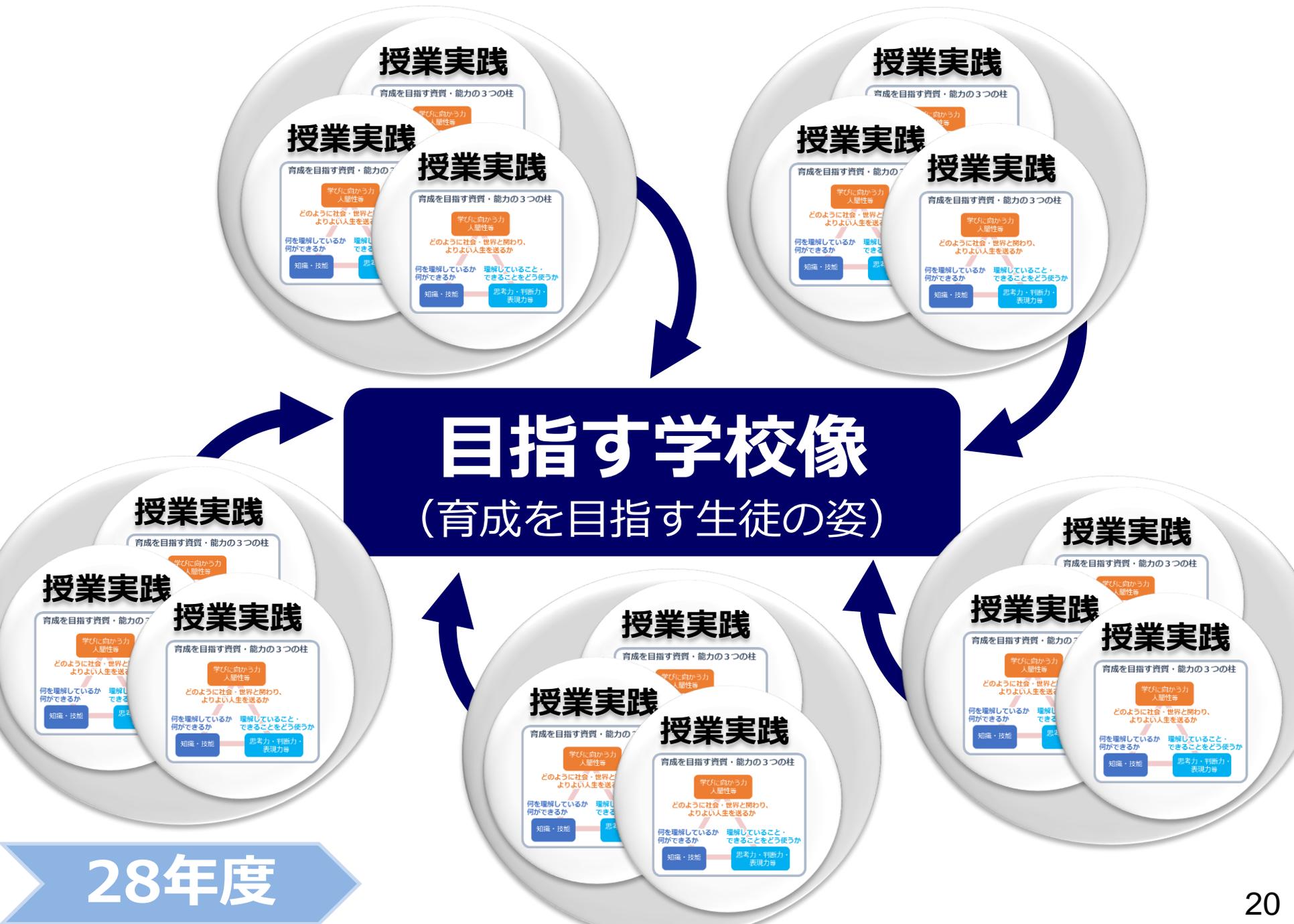


上の図は、教育課程を軸にした、学校教育の改善・充実の好循環を図式化したものです。「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子供たち一人一人の資質・能力を確実に育成していくためには、各教科等の学習とともに、教科横断的な視点で学習を成立させていくことが重要です。各学校が子供たちの姿や地域の実情等を踏まえつつ、校長を中心に、全ての教員が教科等や学年を越えて学校全体でPDCAサイクルを確立して教育活動に取り組むことが、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現することにつながります。

●当リーフレットは、「中央教育審議会教育課程企画特別部会編纂整理（平成27年8月）」を基に作成したものを、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年12月21日）」に基づいて平成29年3月に改訂しました。
●当リーフレットについてのお問い合わせは静岡県総合教育センター生涯学習企画課企画班（0537-24-9706）をお願いします。



28年度



目指す学校像 (育成を目指す生徒の姿)

28年度

研修計画のPDCA⇒新たな「P」

目指す学校像

(育成を目指す生徒の姿)

〇〇高校の生徒に
育成すべき
資質・能力

生徒

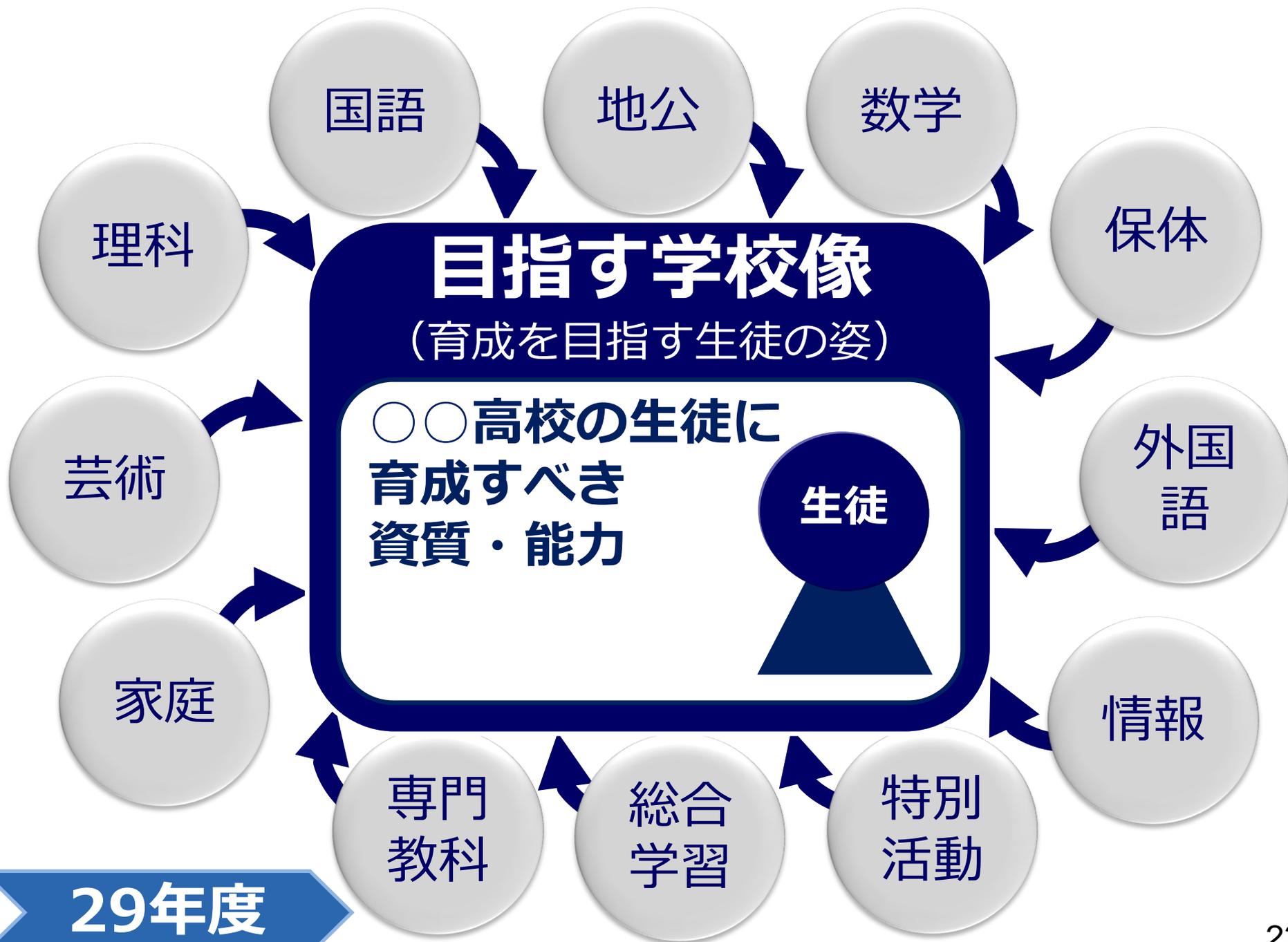
29年度

教科の枠を越えて、
一人の生徒をどう育てるかを共有する

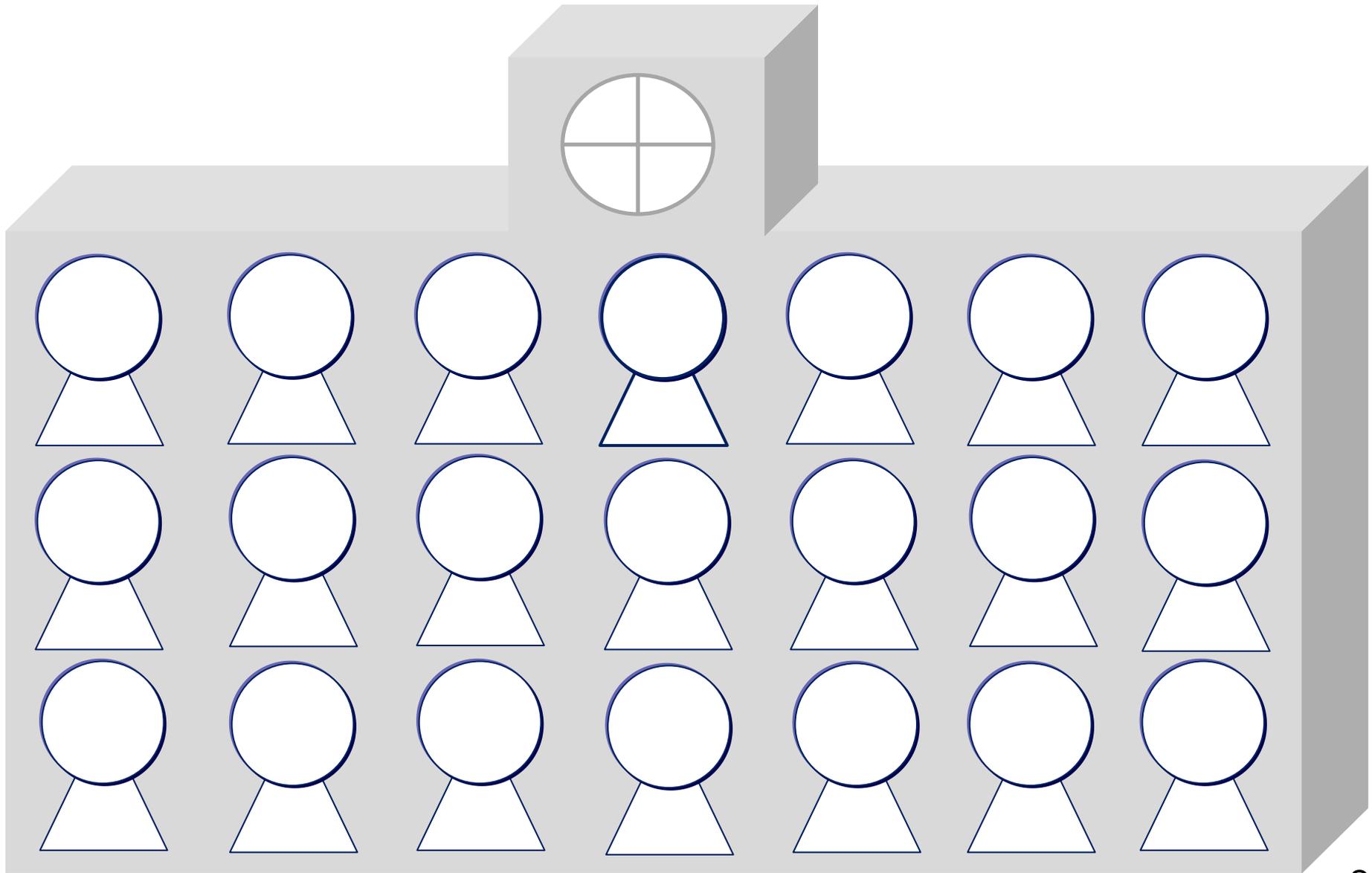
一人の生徒をどう育てるかを出発点に



個業から、協業「チーム学校」へ



生徒モデルで「アイコンを付ける」



MISSION

第1学年末に、新2年部の指導方針会議を実施します。今後★※◇さんをどのように育てていくか、検討しましょう。

イメージは
「進路検討会」等

演習の流れ

1 「〇〇高校の生徒に育成したい資質・能力」を設定する。

2 生徒モデル（A or B）を選択する。

3 A or Bの実態を確認する。

4 担当教科からアプローチする。【個人⇒グループ】

5 つながりについて協議する。

6 共有（ポスターツアー）

7 本日の振り返り【個人】

1 「〇〇高校の生徒に育成したい資質・能力」を設定する。

目指す学校像（育成を目指す生徒の姿）①

21世紀を担うリーダーとして、グローバル時代を生き抜く逞しさを身に付けるとともに、国際社会、あるいは地域社会の指導的立場で活躍できる人材へと成長する。

〇〇高校の生徒に育成したい資質・能力

アレンジ・加筆可

育成したい資質・能力の例

伝える力 聞く力 公共心 チームワーク 自己有用感 主体性

粘り強さ ストレスに対応する力 公正に判断する力 まとめる力

発見する力 調べる力 計画的に取り組む力 課題を解決する力

選択する力 学びに向かう力 役立とうとする意識 前に踏み出す力

2 生徒モデル（A or B）を選択する。

3 A or Bの実態を確認する。

生徒モデル（生徒 — ）の実態・・・現状では育成または発揮できていない資質・能力

グループで生徒AまたはBを選択する。

イメージを追加してよい。

**現状では育成または発揮できていない
資質・能力を確認する。**

4 担当教科からアプローチする。【個人】

例 1

公民〈公正に判断する力〉
複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できるような、「考えるための材料（資料）」を用意する。

例 2

数学〈粘り強さ〉
自力解決において、「何で困っているのか」を記述させる場面を設定する。

例 3

保健体育（体育）〈課題を解決する力〉
自己や仲間の挑戦する課題を設定したり、見直したりする機会を設ける。

例 4

外国語（英語）〈伝える力〉
自分の考えに最も近い意見を選び、整理して、相手にわかりやすく伝える活動を取り入れる。

例 5

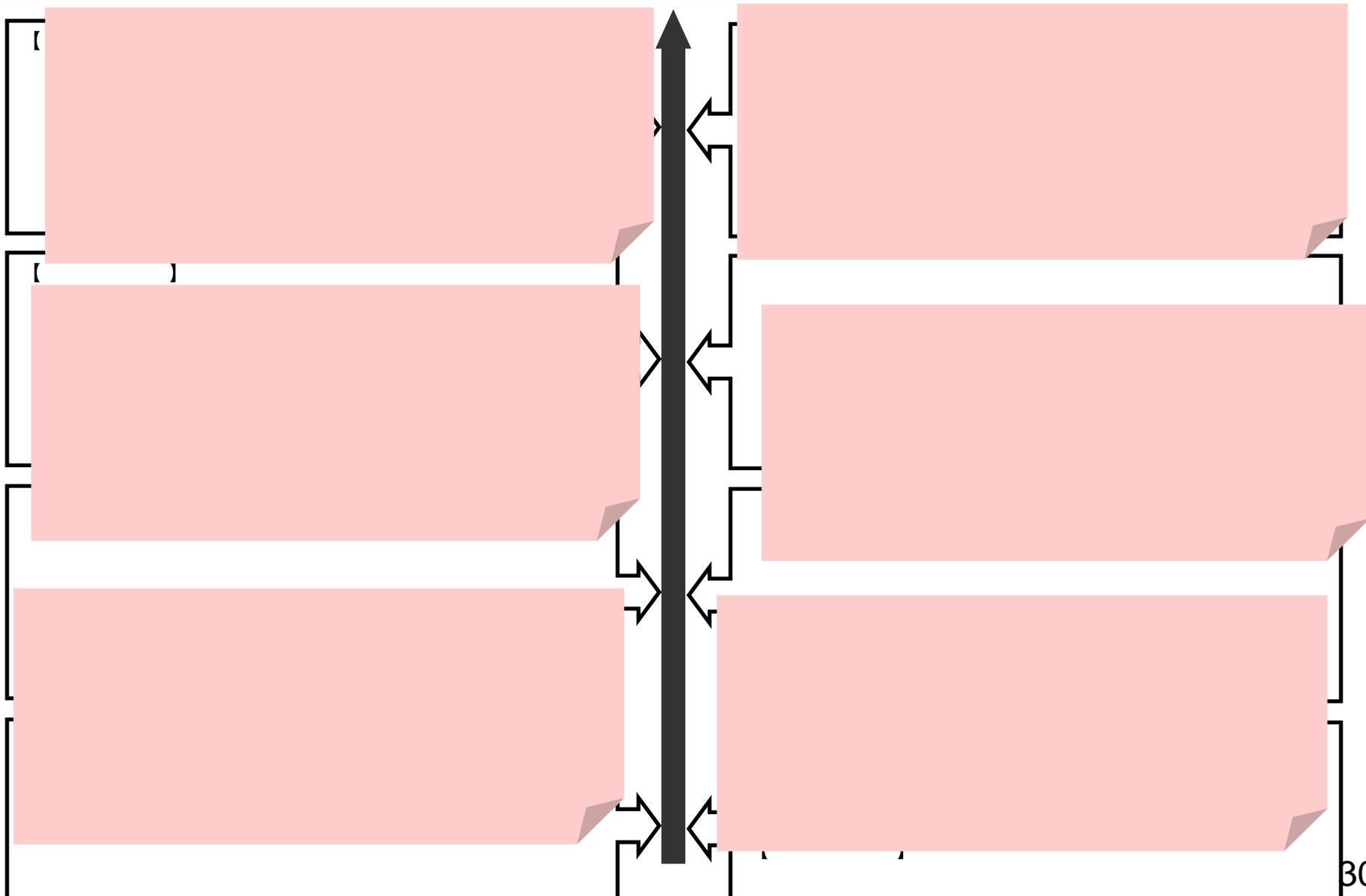
家庭〈選択する力〉
複数の選択肢の中から、自分の置かれている状況を踏まえてどのような行動を取ればよいか、考え判断する「意思決定」の機会を作る。何を食べるか、TPOに応じた着方、環境とライフスタイルなど。

例 6

商業〈役立とうとする意識、前に踏み出す力〉
商業で学んだ知識・技能を地域社会で生かしたい。そのためには行政や企業と共に創り上げていく姿勢と課題設定が必要になる。

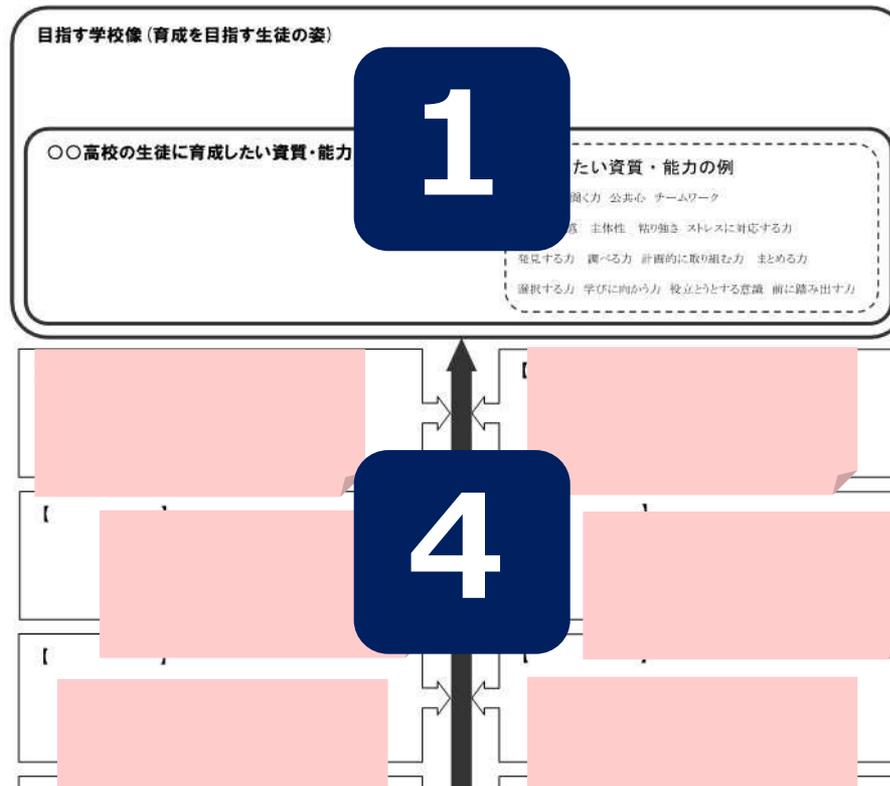
4

担当教科からアプローチする。【グループ】



5 つながりについて協議する。

演習「資質・能力の育成につなげるカリキュラム・マネジメント」ワークシート



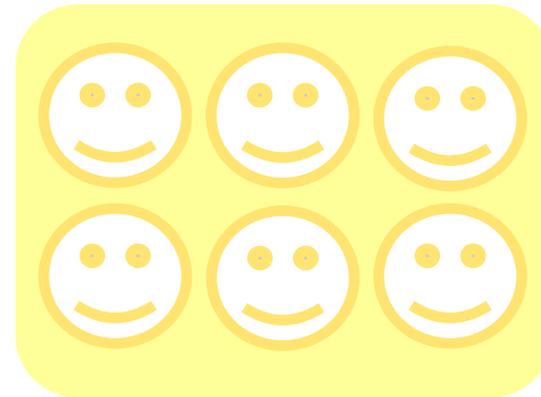
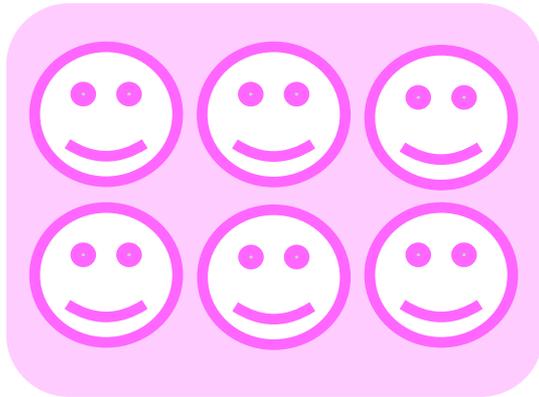
【協議の視点】

視点Ⅰ ④が①につながっているか (タテの視点)

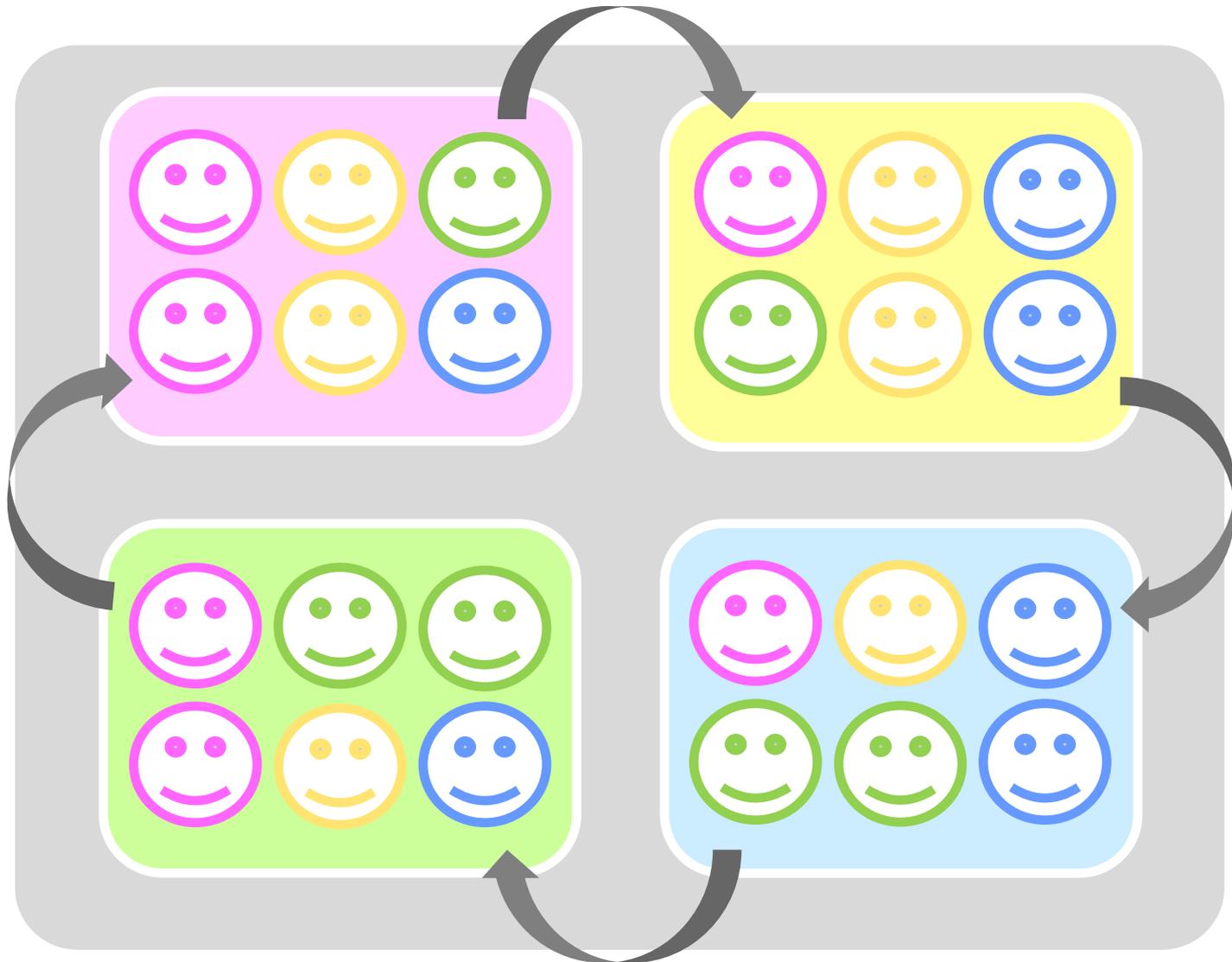
視点Ⅱ ①に向けて④にはどのようなつながりが見出せるか (ヨコの視点)

- ・ どのような点に共通性があるか
- ・ より効果的に身に付けさせるための順序性はあるか

6 共有（ポスターツアー）



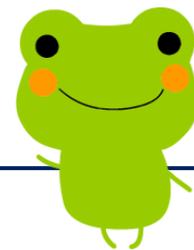
6 共有（ポスターツアー）



7 本日の振り返り【個人】

①先生方の授業は、どのような資質・能力を育成するものになっているのでしょうか？

②それはどのように「目指す学校像」につながっているのでしょうか？



自身の教科での生徒の顔しか知らないことに気づいた。他教科との協力が必要だと感じた。

具体的に、ある生徒をイメージして多くの教科から指導の方向が示されたことが興味深かった。共通点、相違点から、様々なアプローチを考えるきっかけがあったように思う。

教科で何ができるかもっと明確にしていきたいと思った。他教科のアイデアが面白く、とても参考になった。



29.9.11静岡商業高校 先生方の振り返りから

日々は忙しく、なかなかケースで皆で考えることはないので、よい研修、コミュニケーションの場となりました。

各教科とのつながりを大事にして、生徒をどのように成長させるのか、共通認識が必要だと感じた。

日々に力を注げるのは大きな目標があるためなのだから、1日を考えるのには、ワクワクするような未来のイメージを持たなければならないと思った。

教科を越えて、生徒を育てる研修は機会が少ないと気付いた。他教科との連携を取るためには、学校全体での研修が担保されなければ実現は不可能だと思った。

教職員の足並みをそろえる

みんな
協働性

創り
創造性

続ける
継続性